

協働のまちづくり

～地域で育てる「俵山地域協育ネット」の取組～ 【長門市 俵山中学校区】

地域の概要

長門市俵山地域は、長門市の南端部に位置し境を下関市と接しており、標高約 140mの渓谷型高冷地にあります。

従来から地域と学校とのつながりは深く、文化の伝承や体験学習など地域総ぐるみで支援が行われています。

こうした中、その取組の一部を担っている公民館は、平成 20 年 10 月から俵山地区発展促進協議会が指定管理者となり、地域が運営する公民館の特色を生かして、子どもから高齢者まで地域一体となって活動を展開しています。

人口	1,175 人	
世帯数	487 世帯	
対象校及び児童生徒数	俵山中学校	33 人
	俵山小学校	35 人

組織の内容

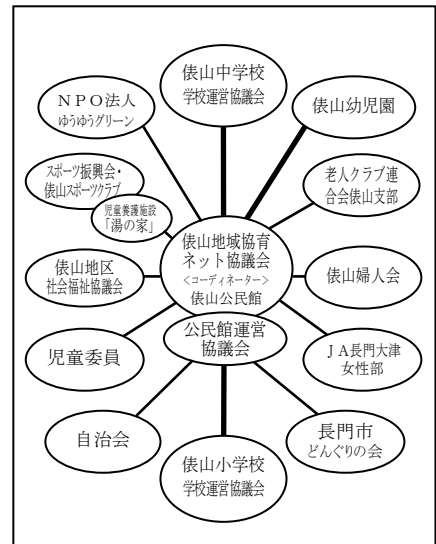
近年、過疎化と少子高齢化が進行する中、学校の存在は地域にとって大きく、様々な形で元気の源になっており、地域住民の子どもたちに寄せる期待は大きいものがあります。

こうした中、地域住民が総ぐるみで学校を支援するため、かねてから地域づくりの主体となっている、「俵山地区発展促進協議会」の構成団体等が中心となって、「俵山地域協育ネット協議会」（以下「協議会」という。）を組織し、取り組んでいくこととしました。

推進母体となるこの協議会では学校・地域双方からの情報収集、要望、支援、交流等を企画運営し「地域総がかりで子どもを育てる」システムを構築することとしました。

また、協議会に小・中学校の地域担当教員、公民館運営協議会地域づくり部会及び公民館職員で幹事会をつくり、必要に応じて連絡調整をすることとし、学校等で支援がほしいときには、学校からコーディネーター(公民館長)に働きかけ、内容を検討し各支援団体をお願いしています。

支援する団体は、自治会、婦人会、老人クラブ、NPO法人ゆうゆうグリーン俵山、JA長門大津女性部、長門市どんぐりの会、児童委員、スポーツ振興会等で、コーディネーターである公民館は協議会の企画運営や学校からの支援相談に対応するなどの役割を果たしています。



特色・重点的な取組

千年の歴史をもつ俵山温泉を擁する当地域には、豊かな自然と多くの歴史・文化があります。

この地に、県指定無形民俗文化財となっている俵山女歌舞伎があり、明治後期に旅芸人が俵山湯町に住み着いたのが始まりとされ、全国でも極めて珍しい女性のみの芝居組で、芸を受け継いだ人たちが協力して復興させたものです。この女歌舞伎を地元保存会等が中心となって子ども歌舞伎として、現在、児童生徒により継承されています。

小学生は「白浪五人男しろなみごにんおとこ」、中学生は「五人三番叟ごにんさんばんそう」を俵山温泉祭や俵山地区文化産業祭などのイベントで披露しており、過疎化が進行する中、俵山女歌舞伎の伝承は地域住民の誇りで、これからも保存会と学校、地域住民が一体となって伝承してほしい取組です。

主な活動の紹介

○学校支援の様子

- ・（小学校） 校外支援…田植・稲刈体験学習、竹の子掘り及び料理教室、河川プール開き、親子水辺の教室、一位ヶ岳登山道整備作業、いも植え・収穫体験等
校内支援…高齢者との交流、子ども歌舞伎練習、地域講師による学習会、放課後子ども教室での放課後支援等
- ・（中学校） 校外支援…シャクナゲの花殻摘み体験、職場体験学習、野菜などの即売等
校内支援…農園の手入れ、高齢者との交流、子ども歌舞伎練習、地域講師の講演等
- ・（小学校・中学校） 温泉祭り・文化産業祭（子ども歌舞伎実演）、秋葉まつり（相撲大会）
- ・（幼稚園・小学校・中学校） 幼稚園・小学校低学年・中学校とのいも掘り体験交流
幼・小・中・地域合同体育祭



田植え体験学習



いも掘り体験交流



地域講師学習



高齢者との交流



子ども歌舞伎実演



シャクナゲ花殻摘み体験



地域合同体育祭



放課後子ども教室お楽しみ会

成果と課題

平成23年5月、俵山小学校と俵山中学校が、地域・保護者が学校運営に参画するコミュニティ・スクールの指定を受けるとともに、公民館を中心とした学校・家庭・地域の連携による「俵山地域協育ネット」の取組で、地域で子どもを育てる市民協働の教育支援体制が確立されてきました。

現在、様々な形で学校との連携による支援が行われていますが、更に学校の要望に応えるためには、地域住民や団体等との連携を強め、地域にある人的資源を活用する方策として人材バンク制度を整備することが必要と考えています。

子どもが減少する中、特色ある教育の推進ができるよう、これからも連携して支援していきたいと思えます。

今後の取組

強固な地域協育ネット体制の中、地域全体で学校への支援をすることはもちろんですが、小中の連携の視点も踏まえた取組をするとともに、俵山幼稚園や小・中学校の家庭教育学級に対する支援の拡充を図っていききたいと思えます。

なお、学校との連携を図りやすくするため、人材バンクを早急に整理し、一人でも多くの地域住民が教育支援にかかわれる体制づくりを進めたいと考えています。併せて児童生徒数が減少する中、スポーツ活動にも支障が出ており、スポーツクラブ等との連携により児童生徒の参加機会を多くしたいと思えます。